

◆特集展示「井伊家と近代彦根」展示資料リスト◆

※展示番号31は個人蔵。それ以外はすべて彦根城博物館蔵。

展示番号	指定	資料名	数量	年月日	差出(作成)	宛名
I 井伊家の近代のはじまり						
(1) 井伊直憲の洋行						
1	重文	井伊直憲洋行日誌	1冊	明治6年(1873)	—	—
2		井伊直憲肖像画	1幅	明治時代	—	—
3		欧州巡回日記	1枚	明治6年(1873)8月22日～9月15日	—	—
4		欧州巡回中英文日記	1枚	明治6年(1873)	—	—
5		井伊直憲書跡	1幅	年月日未詳	井伊直憲	—
6		井伊家家扶書簡(渡米中の井伊直憲近況等について)	1通	明治6年(1873)5月6日	井伊家家扶	龍宝寺清人、他1名
(2) 明治初年の家政						
7		井伊家家職日誌	1冊	明治5年(1872)	—	—
8		覚書(貸付金取扱等について)	1綴	明治8年(1875)6月12日	井伊直憲	西村捨三
9		彦根分惣御金仕分帳	1冊	明治7年(1874)8月	—	—
II 明治前期の井伊家						
パネル		千松館平面図				
(1) 明治9年の家政改革						
10		井伊直憲書簡(家政改革の方針について)	1通	明治9年(1876)10月2日	井伊直憲	花木伝
11		御更正二付申上書(貸付金、公債、所有田畑等について)	1冊	明治9年(1876)10月	花木伝、他2名	—
12		御更正二付申上書(諸道具整理方針、明治10年以降の代拝費等について)	1冊	明治9年(1876)10月	花木伝、他2名	—
(2) 千松館の業務						
田畑所有地管理						
13		井伊家所有田畑小作年貢勘定簿	1冊	明治17年(1884)1月～3月9日	花木伝、他1名	—
道具の管理						
14		御武器帳	1冊	明治時代	—	—
社寺の管理						
15		井伊神社御勝手御勘定帳	1冊	明治11年(1878)1月～同21年12月28日	大久保章男、他1名	—
彦根城の管理						
16		彦根城内土地・堀等拝借願書等綴	1綴	明治29年(1896)12月15日～同36年10月13日	—	—
招魂社の設立						
17		招魂場場所払い下げ願書等綴	1綴	明治5年(1872)～同9年	井伊直憲、他	長浜県、他
18		招魂社建立趣意書	1冊	明治8年(1875)4月5日	井伊直憲	—
19		招魂社建立関係書類綴	1綴	明治8年(1875)～同9年	西村捨三、他	龍宝寺清人、他

展示番号	指定	資料名	数量	年月日	差出(作成)	宛名
Ⅲ 明治後期から昭和戦前期までの井伊家—当主井伊直忠時代—						
(1) 家政事務の整備						
20		千松館日誌	1冊	明治35年(1902)7月11日～10月6日	千松館	—
21		明治39年4月分収支伝票綴	1綴	明治39年(1906)	—	—
22		明治39年5月分収支伝票綴	1綴	明治39年(1906)	—	—
23		明治39年6月分収支伝票綴	1綴	明治39年(1906)	—	—
24		明治36年度大洞弁天社分収支伝票綴	1綴	明治36年(1903)～同37年	—	—
25		明治36年度井伊神社分収支伝票綴	1綴	明治36年(1903)～同37年	—	—
26		井伊家家則	1綴	明治44年(1911)	—	—
27		千松館年中行事	1冊	大正11年(1922)	井伊家別邸 千松館	—
(2) 千松館と東京本邸との連絡						
28		東京本邸へ発送書類控綴	1冊	大正5年(1916)7月3日～同6年12月31日	千松館	—
29		東京本邸よりの書類綴	1冊	大正5年(1916)7月2日～12月30日	千松館	—
(3) 井伊直忠の来彦						
30		日誌(井伊直忠等帰彦時)	1冊	大正4年(1915)10月20日～29日	千松館	—
31		井伊直忠書跡	1枚	—	井伊直忠	—
32		御機嫌伺人名簿	1冊	大正4年(1915)10月20日～29日	千松館	—
33		献上品并人名簿	1冊	大正4年(1915)10月20日～27日	千松館	—
34		直忠公御帰館日誌	1冊	昭和5年(1930)10月20日～12月3日	井伊家別邸 千松館	—
(4) 井伊直忠という人						
35		井伊直忠手帳(日々の案件と卦の結果について)	1冊	(元号未詳)12年12月～(同)13年5月	井伊直忠	—
36		井伊直忠手帳(日々の案件と卦の結果について)	1冊	大正15年(1926)12月9日～昭和2年(1927)6月	井伊直忠	—
37		井伊直忠ノート(真言密教諸作法について)	1冊	年月日未詳	井伊直忠	—
38		井伊直忠手控帳(能鑑賞時のメモ)	1冊	年月日未詳	井伊直忠	—
39		能型付	1枚	年月日未詳	梅若万三郎	—
40		長絹 紫地扇面に枝垂桜と流水文様	1領	江戸時代(19世紀)	—	—
41		井伊神社奉納能楽組	1枚	昭和6年(1931)6月1日	—	—
パネル		井伊神社演能写真				
Ⅳ 彦根製糸場						
42		彦根製糸場御払い下げの儀に付願書	1冊	明治19年(1886)	井伊智二郎	滋賀県令 中井弘
43		三拾貳年六月第貳回デニール品位日々調査簿	1冊	明治32年(1899)6月10日～14日	彦根製糸場	—
44		三拾二年六月第三回デニール品位日々調査簿	1冊	明治32年(1899)6月16日～24日	彦根製糸場	—
45		生糸優等賞褒状	1通	明治24年(1891)1月26日	滋賀県勸業協会 会頭 岩崎小二郎	彦根製糸場
Ⅴ 地域貢献						
46		井伊直憲書簡写(彦根共立学校設立への寄付金等について)	1通	明治9年(1876)	井伊直憲	東京府権知事 楠本正隆
47		井伊家所蔵書籍借用証	1通	明治13年(1880)11月	彦根中学校	大久保章男、他1名

展示番号	指定	資料名	数量	年月日	差出(作成)	宛名
48		彦根育英会会則	1冊	年月日未詳	—	—
49		財団法人彦根育英会名簿	1枚	昭和9年(1934)9月	彦根育英会	—
50		御礼証(類焼人救助金頂戴について)	1冊	明治7年(1874)12月22日	伊香郡第六区高月村類焼人、戸長・副戸長	御内家御掛り御役中様
VI 井伊直弼の顕彰						
51		願書(桜田事変殉難者記念碑建立について)	1冊	明治18年(1885)4月	大海原尚義、他6名	井伊直憲
52		開国始末・英訳開国始末出納記録	1冊	明治26年(1893)3月17日～同40年1月29日	—	—
53		千松館日誌	1冊	明治43年(1910)5月21日～同44年5月18日	千松館	—
パネル		井伊直弼銅像写真				
54		大正6年10月1日御誕辰祭費予算書	1枚	大正6年(1917)	—	—
55		千松館日誌	1冊	大正8年(1919)3月1日～11月30日	千松館	—

写真解説

1 井伊直憲肖像画 1幅(展示リストNo. 2)

縦 114.3cm 横 52.0cm 明治時代

当館蔵



彦根藩井伊家最後の当主で、近代井伊家初代当主の直憲(1848～1902)の肖像画。石版刷り。滋賀県在住の画家・井上菜亭いのうえさいていの作。

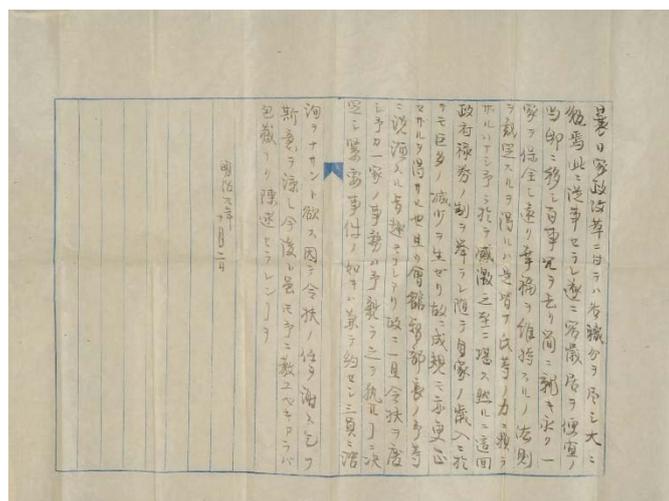
直憲の風貌が中年期以降に見えることから、明治中期以降の姿と思われます。

華族の礼装であるフロックコート姿に、明治という新しい時代を見ることができます。

2 井伊直憲書簡(家政改革の方針について) 1通(展示リストNo. 10)

縦 24.5cm 横 33.8cm 明治9年(1876)10月2日

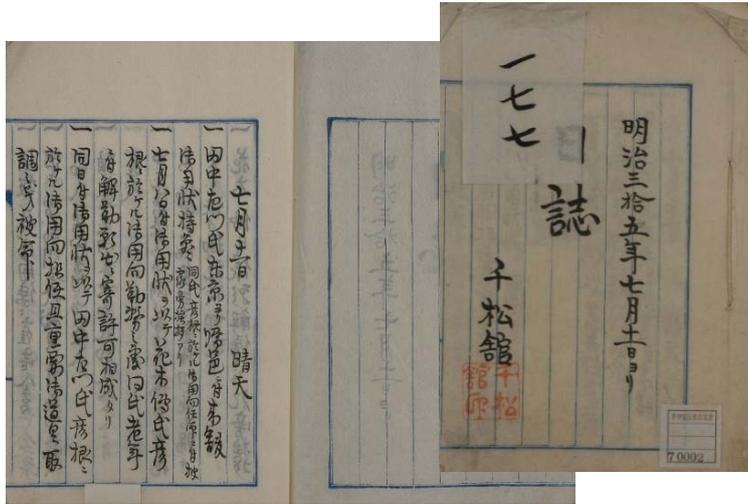
当館蔵(井伊家近代文書)



井伊家当主の直憲が、彦根家職の花木伝に宛てたもの。明治9年の政府の「ろくけん禄券ノ制」(華士族への給禄廃止)による歳入の激減に伴い、かれい家令(戸主の補佐役)・かぶ家扶(家令の代理)を廃し、今後は、当主である直憲が自ら家の事務を取り仕切ると伝え、「緊要」(極めて重要なこと)の案件には、「三員」(谷鉄臣・たべせんぞう田部洗蔵・にしむらすてぞう西村捨三)の意見を求めています。江戸時代には大名だった直憲が自ら家の事務を行うとする決意を見ることができ、時代の大きな変化の中で井伊家もまた変革を迫られた事がわかります。

3 ^{せんしやうかんにつし}千松館日誌 1冊(展示リスト No. 20)

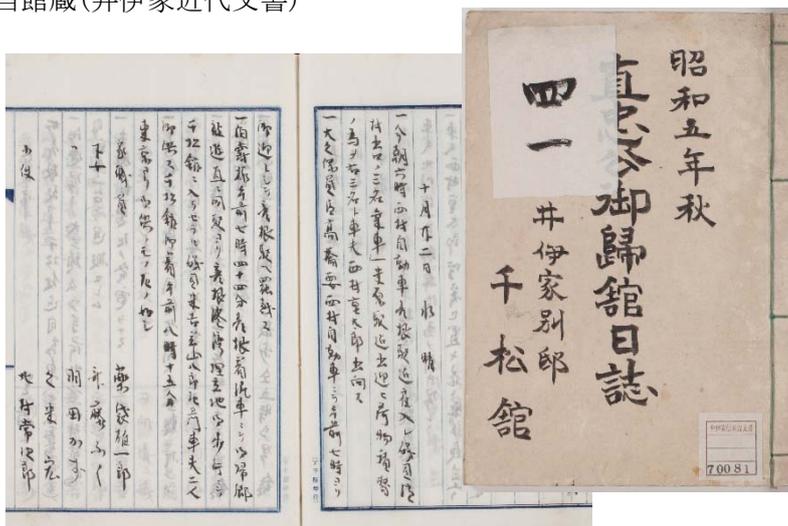
縦 24.0cm 横 16.4cm 明治 35 年(1902)7 月 11 日～10 月 6 日
当館蔵(井伊家近代文書)



彦根における井伊家の家政機関である千松館の^{かしく}家職が記した日誌。昭和 22 年(1947)までのものが 61 冊伝わっています。毎日の天気と、来館者や祝い事、雇用人の名前と数などが記されています。写真の部分では、それまで千松館の事務を取り仕切っていた花木伝が老齢のため辞任を認められ、新しく田中左門が彦根の「御用向担任」を命じられています。千松館職員による職務日誌は明治初期から確認できますが、本資料のように、表紙がつけられ、形式が整うのはこの時期以降のことです。千松館が家政機関として制度を整えていく様子が窺えます。

4 ^{なおただこうごきかんにつし}直忠公御帰館日誌 1冊(展示リスト No. 34)

縦 23.2cm 横 16.0cm 昭和 5 年(1930)10 月 20 日～12 月 3 日
当館蔵(井伊家近代文書)

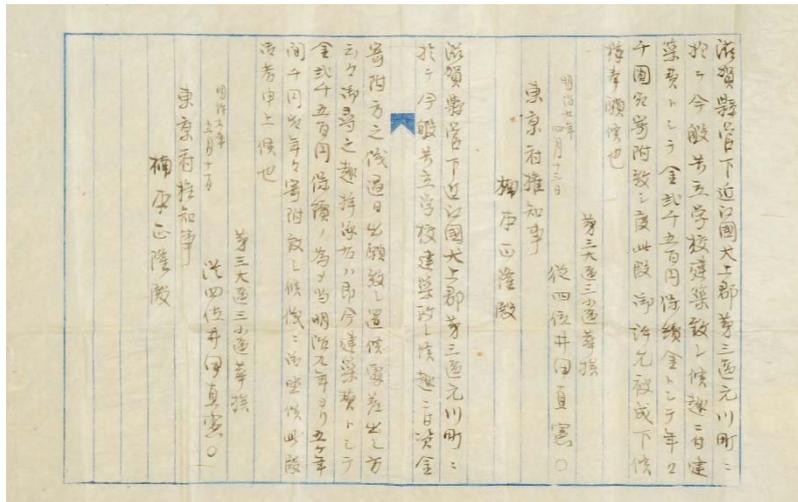


普段は東京に暮らしている井伊家当主の^{なおただ}直忠が彦根に帰って来た際の出来事を、千松館の^{せんしやうかん}家職が書き記したもの。彦根駅に直忠を出迎えに行く人たちや、彦根滞在中の直忠への訪問者など、直忠と地域の人たちとの交流を知ることができます。写真の部分(10 月 22 日の記事)には、千松館の家職が直忠を駅まで出迎えに行き、直忠が午前 7 時 44 分着の汽車で彦根駅に到着し、その後徒歩で千松館に入ったことなどが記されています。

5 井伊直憲書簡写 (彦根共立学校設立への寄付金等につき) 1通(展示リスト No. 46)

縦 24.2cm 横 34.0cm 明治9年(1876)

当館蔵(井伊家近代文書)

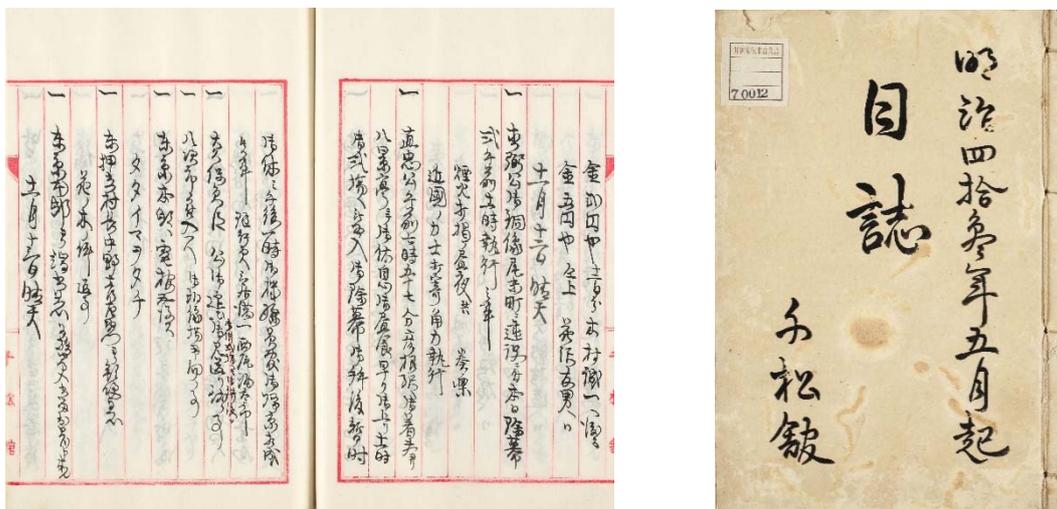


井伊直憲が彦根共立学校(後の彦根中学校、現在の彦根東高校)設立にあたって、その建築費と「保続金」(維持費)の寄付をしたいと、東京府権知事に願い出ています。その後、寄付のしかたについて問い合わせがあったようで、建築費を2,500円、維持費を毎年1,000円ずつ5年間寄付すると答えています。他にも直憲は、旧彦根藩領出身者の学業奨励のために奨学金を貸し出しています。自身に縁の深い彦根の地における教育にかける熱意が伝わってきます。

6 千松館日誌 1冊(展示リスト No. 53)

縦 23.8cm 横 16.4cm 明治43年(1910)5月21日～同44年5月18日

当館蔵(井伊家近代文書)



千松館の家職が日々の出来事を書き記した日誌。本資料には、明治43年5月から同44年5月までの出来事が記されています。写真の箇所には、井伊家13代直弼の銅像除幕式の記事が記されており、昼夜「煙火」(花火)が上がり、音楽が奏でられ、相撲の興行も行われたことがわかります。横浜に続く彦根での直弼銅像の建設は、直弼の顕彰において井伊家や旧藩士にとって重要な意味を持ったと考えられます。ただし、理由は不明ですが、この式典に参加した当主の直忠は、わずか数時間の滞在で慌ただしく帰京しています。